

「杉並区における地上部街路に関する話し合いの会」

話し合いの会の進め方に関するアンケート（概要）

1. 目的

話し合いの会の進め方を検討するうえでの参考とするため

2. 対象者

話し合いの会の構成員（地域住民[公募]、沿線町会・商店会等の代表者、PI 委員）

3. 配布日

平成 28 年 10 月 27 日

4. アンケート方法

以下についてのご意見・ご要望を自由回答していただきました

- ① 話し合いの会の進め方について
- ② その他

5. 回答数など

- ・配布者：16名
- ・回答者：10名

6. アンケート結果

別紙のとおり

1. 話し合いの会の進め方について

(1) 現状

① 議論が進まない・意見が毎回同じ

- ・賛成者は話をしづらい。
- ・これ以上話してもダメで前に進まない。
- ・杉並区の話はほとんど話し合われていない。
- ・反対者ばかり話をする。傍聴席も反対者ばかり。
- ・話し合いの会は、どう見ても纏められる要因が皆無である。
- ・行政 side も対応がまずく、反対 side の意見に引きずられ議論が前向きに進まないと感じた。
- ・個人的事情もあり、本会を欠席しているが、議事録を見る限り相変わらず事態は前進していない。
- ・毎回毎回、同じ意見で将来に向け、どうしたら今の環境よりも、より進化するか議論が全くされてない。
- ・道路建設反対派の方々は、力強く抗議の声を上げ、行政に訴えかける中、推進派は意見交換の間もない。会の進行に毎会いらだちを感じる。
- ・質問者も、この会では自分が納得できる都側からの答えがどうかは主観の相違であることを、そろそろ納得すべき。司会者もそう促すべき。
- ・委員から「質問」「意見」としてあがる事項に対し、東京都側も誠心誠意答えてはいるが、「納得できない」という理由で、何度も同じ質問意見がくり返される。
- ・本話し合いの会に参加した初期は、道路整備を出来る又素早く進める為の議論と思っていたが、現実には特定の2～3人による「引き伸ばし」「反対」を目的とする様な専門的細かな意見が中心で不快な思いをした。
- ・もともと、外環の2は地下に外環がもぐった時点で、白紙にもどすべきだった。白紙に戻す気がないなら、こんな法によらない会合などすべきではなかった。行政は、「道路必要論」ばかり説明、住民はどんな理由であろうとただ「反対」だけ。最初から平行線になるのはわかっていたでしょう。反対運動に対して、一度ぶれて「地下に潜ったら」もう地上で事業はできないのでは。

② 時間がかかりすぎている

- ・時間が長くかかりすぎである。
- ・長年に渡り、会合が開催されている。
- ・話し合いの会も長期にわたっている。
- ・5・6年もの長い時間をかけて（議論がオドル）事態が前進していない事は民間では考えられない。特に、行政側（都他）は時間のムダ、経費のムダという意識が欠如しているのではないか。
- ・話し合いの会の始点は情緒的、惻隱の情であったが、途中経過は都市計画の存在を根拠とする論

理性に終始した。長期の議論は必然的に深みにはまり、足搔き、もがき、途方にくれる。論理を基盤とする議論は未成熟な人間社会で催される儀礼式のため、本来的に合意に至るという有効性を持ちえない。社会的問題の合意を見出す真のリーダーは庶民を圧倒するだけの見識、理性、知性を有するため瞬時に合理的結論に至る。

③ 欠席率が高い・反対意見の構成員が多い

- ・先に進まない現状に委員の欠席率も高くなっている。
- ・そもそもこの会合に「この道路」を作ってもらいたい人は、来ていないのです。
- ・住民側の構成員数は当初22名在籍していたが、色々な事情で現在は17名、その内、常時、会議に参加する構成員は約8名である。この様な数になってしまうこと自体、問題である。
- ・杉並区の住民は、推進派も多くいるらしいと聞きますが、この話し合いの会では反対派の方々が多く、かた寄った意見ばかり多く聞きます。推進派の方々の意見も、もっと聞き話し合えるように推進派の方々の委員補充をお願いします。
- ・構成員の中には、外環の2について、必要有りと主張の人（略して賛成派と呼ぶ）と不要と主張の人（略して反対派と略称）が存在する。この中で外環の2についてどう思うか？ の意見を表明した結果では、程度差は多少あるが、およそ賛成派は3名、反対派は9名である。その様な背景の結果として、発言者数は反対派の人が多のは当然である。一方、賛成派の人は、反対派の意見が多い中では賛成意見も出し難く、結果としてこの会合には出たくない。欠席してしまいたい。・・・という考えも出てしまうのかな？ と思っている。

④ 議論がかみ合わない

- ・私は反対派であり、外環の2は不要どころか住民にとっては百害あって一利無しと考えている。であるから仮に外環の2が出来たとしての生活予想から自分としての外環の2に対する意見を何回も発表して来た。具体的にいろいろと問題点を多く持っていると感じている。ところが、賛成派の方々は、一般論として南北交通が無いとか、渋滞の緩和に役立つとかの発言あるものの、これからも生活をその場所で続ける立場での、外環の2のメリット、必要性についてはほとんど語っていない。意見表明時間も極めて短いのである。
- ・もともと東京都は現在の計画地に居住する多くの住民の立ち退きなど、住民に甚大な影響を与える都市計画道路「外環の2」については主たる高速道本線が地下化し、さらに杉並側の青梅インターチェンジが廃止されるなど与条件が大きく変わってしまった段階で新しい条件のもとに、それでもなお地上部に幹線道路としての「外環の2」が必要かどうか、再検討し見直すべきであったが、それはその後各地域自治体ごとに設置された「話し合いの会」にいったん委ねられることになった。構成員の多くは会のスタート時点から話し合いは「計画道路の必要性の有無」についても検討の話題となる事を前提に出席し、議論を進めてきたが東京都は当初から「外環の2」の計画時の趣旨を繰り返し、幹線道路のネットワーク機能や防災機能を取り上げるのみで、廃止を含めて見直しを主張する住民との間にかみ合わない議論を繰り返してきた。

⑤ 意見発表の時間が短い

- ・意見を言う時間が少ない。これだけ時間のかかった件について何時も1人5分は短すぎる。

⑥ 都の姿勢

- ・都の街路計画推進に対し住民からの疑問、質問が出され、都はとぼけた回答、回答の先送りを堅守した。
- ・話し合いの会の課題に選択肢として4個の案を提示した。東京都が4案を提示して住民に選びなさいと言いつつも、都の構成員は街路計画建設のみを主張した。地域住民の選択肢を無視する暴挙である。
- ・地上部街路の有効利用を地域住民の総意を反映するために話し合いの会を設置された。会の構成員は当然、地域住民の代表から選出されるべきである。しかし、東京都は外郭環状道路担当者を構成員として入れ、専用マイクを設置して推進意見のみを主張した。商店会の委員が地域の代表として来ているなら、住民の傍聴は止めるべきだという発言をしません。
- ・話し合いの会での都の回答は全く的外れのものばかり。今後「話し合いの会」を再開するならば、都の回答は、質問の趣旨に合った回答をするよう心掛けて戴きたい。その為に同じ質問が、何回も何回も繰り返し登場している。話し合いの会で質問に対する回答が第5回（H24年10月開催）の分から第14回目分まで積み積もっている。最近になってその量の多さからか、溜まった10回分すべてを回答すべき物を、都は再度アップルしたもののみ説明したいと言いつつも、とんでもない事です。

⑦ 区の姿勢

- ・国・都は造りたいと言っているが杉並区の態度がわからない。

⑧ 司会者

- ・会の主旨に沿う進行できる司会者に交代を求める。
- ・従前から述べてきた事だが、司会者は交代すべきである。
- ・司会者は挙手した質問者に対し、じらす、無視するという不誠実な態度と感じます。そのため、限られた会の時間は、だらだらと費やされ、話し合う時間をとれずに終わってきた。

(2) 今後の進め方

① 都が考えを示すべき

- ・都から先ず過去の説明の次回への繰り返し事項の消化スケジュールを出すべきである。
- ・会の進め方のことであるなら、東京都さんが主催して進めてきたのだから、東京都の考えを示し、それに意見を求めるのが普通ではありませんか。運営については、まず、東京都の考えを教えてください。
- ・この話し合いの会は一体いつまで続くのか、又、この休止状態のまま完了してしまうのか全く不明です。目指す目標、完了時期等を全く示されていない。今回のアンケート集約を機にその発表を含め、全体スケジュールを示して下さい。
- ・本会の進め方としては
 - ① 大きな問題（基本的問題）を、期限（時間）を区切って決めていく。

② 専門的（詳細）な問題は別の専門部会等を作って検討する

以上を、行政 side がリーダーシップを持って構成員 side とやり直すのが肝要と考える。

② 意見発表の機会を設けるべき

- ・準備会等でもいいから、構成員だけで1人15分ずつくらい話させる様にしたらどうか。言い足りないから持越しが続き長引くと思う。

③ 議論を戦わせるべき

- ・私は、この会議の進め方として賛成派と反対派が、がっぷり4つに組んで、その場所に住んで生活する立場での具体的ポイントを挙げ、議論を戦わせるべきだと思います。各論について賛成派の皆さんと意見をやり取りしたいのです。この様な真剣勝負の場を話し合いの会で設定し、早く話し合いの会を再スタートさせて下さい。

④ 中間のまとめをすべき

- ・平成23年7月に第1回「話し合いの会」がスタートして、今日まで14回開催され、出席している構成員の意見はほぼ出されている。このあたりでいったん中間のまとめをしておいた方がいい。そのうえで、残された問題や課題について整理してから進めるようにした方がいい。

⑤ 話し合いの会を終了すべき

- ・話し合いの会は終了して、杉並区民投票にしたら良いのでは。

⑥ 都が姿勢を改めるべき

- ・話し合いの会を長期休み、今回新たに再開する場合、今までの課題、質問に対し無視、先送りを止め、真摯に取り組めるのか？ 全てを治療できる最大の医者は、時の経過と言われるが、治療内容は放置である。偽医者は最高の評価を得ている。最後を迎えてどちらの医者と呼ぶのか？
- ・この会の趣旨は住民の意向を行政の施策に反映させるためのもので、東京都の計画をそのまま通すというものではないはずである。当初の計画目的については説明に止め、その後生じた新たな環境と条件のもとで、現在住民が望ましいと考える案を最大限くみ取ることが旨として会の運営を図るべきと思う。

2. その他（自由意見）

（1）外環の2の必要性

- ・外環の2は必要ない。
- ・外環の2計画には反対である。
- ・外環道地上部街路建設に反対する。
- ・私の周辺の圧倒的意見は「一日も早く外環道（地上部を含め）開通させてほしい!!」という声である。
- ・練馬区側のみハーフインターチェンジが決定し、正に不十分です。この計画ですと、杉並区のインターチェンジ近くの住民が大変悪影響を受けるのが決定的です。
- ・外環の2は、住民にとって全く必要性を感じません、むしろ百害あって一利なしの道路です。私達は日頃、外環の2の計画地域のこの場所に、もし外環の2が有れば有難いと思うことが有るだろうかと自問自答しながら生活していますが、有難いと思うことは只の1回も有りません。
- ・外環本線を地下化した時に、側道として位置付けられた地上部街路も同時に地下化すべきであったが（または取り消し）この手続はされずに放置された。この行政の置き忘れの非を見逃したことから総べたが始まる。この始まりは誰が見ても論理性、合理性を欠くと思われるので法律上根拠を欠く話し合いの会を設置して、住民を黙らせる方策を計画した。
- ・善福寺さくら町会では地権者80%が外環の2計画に反対であり、この地を絶対に動かないと表明しています。昭和の初め、地元の名士、内田秀五郎氏が10年の歳月を掛けて築き上げて当時の井荻町区画整理で完成された素晴らしい碁盤の目状の街並みの中を、巨大な外環の2道路を斜めに通すことにより、既存道路のアクセスの良さをぶち壊す様な事は許されません。
- ・練馬区側はどんどん工事が進行している状況です。21世紀未来志向の中で安心安全の街作りを考えると、杉並区側のみ取り残され、新しい明るい街作りには向かって行かない。西東京地域は、すごい進化に向けて工事が行われている。今後東京大震災が起きる確率は高まっているのが状況です。確かな道路作りに向かって進んでください。ものすごいスピードで世界が動いています！
- ・私が住んでいる善福寺は、とってもいいところです。自然があるし、お店は近いし、駅に出るにも、バスに乗るにも便利です。子供のころからの思い出もぎっしり詰まっています。こんないいところから出ていくつもりは、これっぽっちもありません。これからもずっと住み続けるつもりです。動きません、離れません。死んでもここにいます。外環の2は中止してください。これが私の意見で、要望です。これ以外はありません。
- ・環境の変化という点では、将来の交通量予測や現時点での交通量実態についてあらためて最新のデータにより見直されるべきであるし、その後の変化としては、例えば都市計画道路調布保谷線の一部開通供用化の進行がある。この路線は一部幹線道路を経て大泉と三鷹中央ジャンクションにも将来つながるもので、幹線道路ネットワークにも寄与する。これらと並行して車でわずか数分の位置にさらに新たに南北幹線道路を造る計画の必要性は格段に低くなってきている。
- ・幹線道路「外環の2」に期待されていた機能 ①広域ネットワーク機能については地下に予定し

ている外環本線自体がすでに有しているものであり、既存の他の都市計画道路と合せて十分に代替機能をはたせるはずである。また ②防災機能の強化、大規模震災への対応についてはことさら「外環の2」に付与しなくてもすでに都で制定されている「木密地域不燃化10年プロジェクト」実施方針（平成24年1月）のなかであげられている地域で優先的に重点策を実施して行けばよい。震災対策としてはまずは建物の耐震構造化、防災構造化を推進することが肝要で、あわせて木密地域での延焼防止に必要な道路拡幅も実施していくことになるが、「外環の2」予定地には該当する整備地域は存在していない。

- ・以上のような状況を住民として共通の認識基盤とすることができるなら、あえて大昔の「外環の2」の計画をそのまま実施するのではなく、現在の良好な住宅環境を維持充実していくことこそ優先されるべきで、既存道路の必要最低限の一部拡幅などで課題への対応は十分に可能なはずであり、その方が将来的にみても賢明な判断と考える。昭和41年の都市計画道路立案時以降、数十年を経ての状況の変化や、今後の道路経費増大の費用負担の在り方についても考慮に入れて、せつかくのこの機会に地域住民の柔軟で現実的な視点から計画を見直すことで負の遺産を後世に残さぬようにしたい。

（2）アンケートについて

- ・集約しても名前は是非明記してほしい。（私の場合）
- ・「いただいた主なご意見・ご要望」が、なぜここに書かれているのか、なぜこの内容なのか、とても不思議で、理解できません。
- ・要望意見を聞く際に、偏った意見を例示して出すのは、東京都の作意なのか？武蔵野での準備会を例示してあるが、その様な発言をした人はいるのか。
- ・一年間も一言の連絡もなしに、話し合いの会を放置しておいて、次回返事すると約束しながら、それには無回答、突然意見要望があったら述べる!! 虫が良すぎる。
- ・アンケートというなら、質問があって、それに書いてある答えの中から自分に合う番号を選ぶものではないですか。自由回答だけのこんなアンケートは見たことがありません。
- ・ちょうど丸1年間、話し合いの会を何の連絡も無く、ほったらかしの状態のまま、突然に玄関に現れ「話し合いの会の進め方のアンケートについてお願いします」との事、全く、ふざけるな！と言いたいです。

（3）別の会を設けることについて

- ・本会とは別に新しい会を作って早く進める事は、今迄の反省から具体的対策が有るのであれば賛成である。（従来の延長ならば意味なし）
- ・議論がワンサイドだから、もう一つの会を作り、そこで発言するというのはとてもおかしい発想と考えます。都もこの考えに賛同しているように私は感じられます（主な意見を例示する位だから）。ワンサイドにさせているのは対抗する意見を出さないから・・・と思います。

(4) その他

- 都の担当者はただ来宅し都の責任には触れずに、まして謝りの言葉もないのは、都の不遜のあらわれである。
- わたしは、東京都は外環の2について諦めたのだと理解していました。既になす術がなく、そうかといって必要性がこれと言って、浮かばない道路であれば当然でしょう。本当に必要であれば、もっと強く、しかも頻繁に住民との働き掛けをして来た筈です。一休みなんてする時間が無い筈です。
- 構成員選出に厳しい制限を付けながら、コンサルタント会社の社員2名を入れ、指揮を受けた。コンサルタント会社の社員2名は会場で都の担当者に指で合図を送り指導した。住民に知らせずコンサルタント会社の社員指導を受けたことに関して都は請負契約書、指図項目等の全ての書類を開示すべきである。